



# Hasebe Go 長谷部 剛 弁護士

新 63 期 32 歳 積水ハウス株式会社国際事業部  
元豊田工機株式会社(現:株式会社ジェイテクト)勤務  
(産業用ロボットの開発・設計などを担当)

現在、積水ハウス株式会社国際事業部、総務・法務グループに所属しています。2012年3月に入社後、1年間法務部にて国内案件を経験した後、国際事業部にて、海外不動産開発事業等のプロジェクトに法務担当として関与しています。現地法令調査、プロジェクト進行に応じて生じる各種法的問題への対応、各種契約書の確認等の業務を行っており、今後はクレーム対応なども行っていく予定です。英語は独学で習得、現在、中国語の習得中です。積水ハウスには、現在4名の日本法弁護士が在籍しており、米国(NY州)の弁護士有資格者も在籍しています。

\* \* \* \*

生まれは東京で、小学校のときに神

戸に来ました。数学や物理といった理系科目が得意だったことと、ガンダム等のロボットが好きだったことから、大学は神戸大学工学部機械工学科へ進学しました。

大学卒業後は、大手機械メーカーである豊田工機株式会社(現社名:株式会社ジェイテクト)に就職し、産業用ロボットの開発・設計や、産業用ロボットを用いた自動車工場のライン設計などを行っていました。また、業務の中で特許や実用新案の申請等にも関与しておりました。これらの経験は、弁護士となつてから知財案件を取り扱う上で、非常に大きなアドバンテージになりました。

エンジニアから弁護士への転身を考えたのは、当時、青色LEDの訴訟など

もあり、知的財産関係の法律について特に関心を持つようになったことがきっかけです。新聞等で法科大学院制度のことは知っており、きちんと勉強できる良い機会であると考え、法科大学院の受験を決意しました。それまでは、法律とは全く無縁で、弁護士についても、行列のできる法律相談所等のテレビのイメージしかありませんでした。

\* \* \* \*

受験の結果、京都大学の法科大学院に合格しました。当時は海外のプロジェクトも任されるようになり、エンジニアとして充実した時期でもありましたので、進学に関しては正直なところかなり迷いました。最終的には、未経験の分野に挑戦したいという気持ちから、法科大学



院への進学を決意しました。

法科大学院は未修コースに進学しました。法科大学院には、法律の勉強は全くの未経験で入学したのですが、これまでの理系の学問とは考え方が全く異なっており、入学当初はかなり戸惑いも大きかったです。教授や同級生のサポート、努力のかいもあって無事に卒業することができ、その年の司法試験にも合格することができました。「我妻栄」の読み方がわからなかったことや、「けだし」は「ただし」かなにかの誤記なのかと考えていたことなども、今となっては良い思い出ですね（笑）。

司法修習では、それまでに勉強してきたことを実際に体験することで、さらに理解を深めることができ、充実した日々を過ごすことができました。また、修習中に多くの方々と交流を深めることもできました。

就職活動では、弁護士としてのキャリアをスタートするにあたり、まずは幅広い案件を経験し、基本をしっかりと固めた上で専門分野を伸ばしていきたいと考え、その観点から色々な事務所のお話を聞かせていただきました。最終的には大阪の事務所に就職を決めました。

\* \* \* \*

弁護士登録後、法律事務所では知財や渉外の案件を中心に取り扱っていましたが、海外ビジネスの現場でより積極的に法律実務を経験したいと考え、積水ハウスへの転職を決意しました。法律事務所と企業の違いに関して、企業では、プロジェクト全体について役割分担をしながら、意見をぶつけ合いながら、新しいビジネスに挑戦できる点が醍醐味です。また、企業の場合は、法的に難しい問題が生じた場合でも「できない」の一言で片づけてしまうわけにはいかないのが、プロジェクト全体のバランスを見ながら最善の方法を考え出す必要があります。頭を悩ませることも多いのですが非常にやりがいを感じています。今後に関しては、実務を通じて、法律の運用面での



理解をさらに深めるとともに、プロジェクト全体をマネジメントする能力も身につけていきたいと考えています。

\* \* \* \*

弁護士業界に関しては、激変期にあると思います。ただ、昔の方がよかったから昔に戻せといった議論が多いように感じられる点については、残念に思っています。私自身は、現在の激変期はこれまで弁護士があまり目を向けてこなかった領域にも目を向けるいい機会であると考えており、これらの領域にはまだまだたくさん可能性があると考えています。これまでのやり方にとらわれることなく新たな領域に積極的に挑戦できる人にとっては、いい環境ではないかと考えています。

\* \* \* \*

趣味はマラソンと旅行です。走って汗をかくといやなことも忘れてリフレッ

シュできます。また、旅行で知らない土地に行くことはとても刺激的です。特に海外に出ると、まったく異なる文化を体験することができますし、海外から日本を見ることで日本のよさについて新たな発見をすることができます。今後は仕事で海外に行くことも多くなりますので、どんな発見があるか今から楽しみにしています。

そうそう、ロボットへの関心は、まだあります。積水ハウスの工場にもロボットのラインがありますが、やはり見るとついエンジニアの視点から色々と考えてしまいますね。今度は弁護士として、日本のロボット技術の発展にも何らかの形で貢献できればうれしいですね。

(Interviewer:阿部秀一郎/Photo:高廣信之)